



教育関係者・事業者部門
《食品製造・販売者等》

農林水産大臣賞

いばらきコープ生活協同組合

(茨城県推薦) 活動期間 11年

茨城農業を応援する野菜の販売体験と多様な暮らしの変化に対応した地域の共食

多様な暮らしに対応した食育の推進

子供たちに野菜を好きになってもらい、茨城県の農業の応援をしてもらう取組として、野菜の販売体験（茨城をたべよう！キッズ・マルシェ）を実施しています。また子供から高齢者まで、地域みんなで夕食を囲み、食育等の生活習慣に関する支援やボランティアによる学習支援等、誰もが安心して過ごせる地域の共食の場づくりとして「ほぺたん食堂」を開催しています。



茨城をたべよう！キッズ・マルシェ

茨城をたべよう！キッズ・マルシェ

茨城をたべよう！キッズ・マルシェでは、「茨城をたべよう！クイズ」を取り入れ楽しく学びながら茨城県の野菜に親しみ、ポップ作りや値段決め、販売作戦に参加の子供たちが自ら行うことで、地産地消への意識を高めることを目指しています。



茨城をたべよう！キッズ・マルシェ

ほぺたん食堂

ほぺたん食堂は、社会福祉協議会、農協、行政と連携しながら進めています。高齢者や独り暮らしの方、赤ちゃん連れの方、子供連れのご家族まで誰でも安心して参加できる居場所とし、単に食事を提供するのではなく、簡単なものを一緒に作ったり、参加者同士が交流をしたりするなど、「地域の共食」「地域コミュニティの再生」の役割も担っています。地元農協から無償で食材提供をいただき、組合員の調理ボランティア、大学生による学習支援ボランティアに支えられながら運営しています。



ほぺたん食堂

「食卓を笑顔に、地域を豊かに、誰からも頼られる生協へ」をめざし、社会福祉協議会や農協、行政、地域の皆さまと連携し「茨城をたべよう！キッズ・マルシェ」「ほぺたん食堂」に取り組んでまいりました。これからも「食育」の取組を進めてまいります。



いばらきコープ生活協同組合 理事長
鶴長 義二



教育関係者・事業者部門
《食品製造・販売者等》

消費・安全局長賞

【9】

株式会社伊賀の里モクモク手づくりファーム

(自薦) 活動期間 12年

農業振興のための食農体験プログラムと食育実践者との全国交流

全国食育交流フォーラム

年1回開催する全国食育交流フォーラムは、全国で活躍する食育実践者の活動報告やデモンストレーションを通じてノウハウや考え方の共有を図るとともに、参加者同士が話し合い、交流する時間を多く設けることにより、全国の食育に関心のある方達のネットワークが広がることを意識しています。



全国で活躍する仲間と出会い、語る3日間

地域振興としての役割

高齢化している近隣農家から、柿やブルーベリーの栽培を引き受けています。地域農業の担い手としてのみでなく、農業公園や直営の農家レストランの運営等で食文化を残し伝える地域振興の役割を担っています。



生食、タルト、ジャム、収穫体験等、複数の接点をつくることを心がけています

工夫を凝らした食農体験プログラム

米、野菜、果樹、酪農等の農業体験プログラムや、ウインナー作り等のものづくり体験は、自社の農業の現場を活用して、生産者の思いや、製造する製品の原材料、製造方法を理解し、楽しく学べるような工夫をしながら、地域農業を支えるファンを増やしていけるよう、取り組んでいます(年間5900回、約35万人)。また、モクモク通信を登録会員に年4回発行しており、季節ごとの情報発信によって事前予約による利用が大半を占めるなど、リピーター率が高くなっています。



家族連れ、学校、海外からの視察等
さまざまな方がファームを訪れます

加工・販売までを農業としてとらえることで、多くの若者たちが農業でめしを食っていける環境を整えること。これが、農業者としての私たちモクモクが考えている『ロマンと夢のある農業』です。私たちの活動が食育の取り組みとして評価され、うれしく思います。



株式会社伊賀の里モクモク手づくりファーム
代表取締役 松尾 尚之



教育関係者・事業者部門
《食品製造・販売者等》

消費・安全局長賞

【10】

琉球新報社 (内閣府沖縄総合事務局推薦) 活動期間 48年

沖縄県内における食育の推進 ～感じる・食べる・育つ～

若い世代を中心とした食育の推進

食生活の急激な欧米化から生ずる生活習慣病の予防、食生活の向上を目的として、料理講習会や子供向け家庭料理セミナー、食育フォーラム等の食育関連事業を実施してきました。昨年度、県内3エリアにおいて若い親子世代を対象に、農林漁業体験、調理体験、流通体験等(26回、964人参加)を実施し、「日本型食生活」の普及と実践、食や農林水産業への理解の増進に向けた食育活動に取り組みました。



フーチャンプルーを作る参加親子

沖縄の豊富な資源を生かした農林漁業

農林漁業体験では、米作りや島野菜の植え付け・収穫、販売までの流通体験、漁業体験では、定置網、クロマグロ養殖場・かつお節工場見学、調理体験では、自ら収穫した米や島野菜を使用するなど、「長寿沖縄」の知恵を継承する食育活動を行っています。なお、これらの食育活動は、地元子供会、地域の婦人会や自治体を巻き込んで実施しています。



定置網を引き上げる児童ら

豊富な情報資源の活用

県民の食生活の意識向上、食文化の維持を目的として、毎年1回、有識者を招いて食育フォーラム(約300名参加)を行っています。事業展開は新聞社の豊富な情報資源や幅広いネットワークを活用して、広く県民へ発信しています。また、料理講習会は2017年3月までに583回となる長寿事業で、沖縄の伝統料理や栄養バランスのよい食生活を紹介しています。



料理講習会



食育フォーラム

長年取り組んできた食育関連事業が評価され、尽力頂いた関係者へ感謝申し上げます。
今後も新聞社ならではの発信力を生かし、県民の食生活の意識向上に貢献して参ります。



琉球新報社 営業局長
新垣 順基



教育関係者・事業者部門
《地方公共団体》

消費・安全局長賞

【11】

富士市食育推進会議

(自薦) 活動期間 10年

学校・PTA・地域との連携による食育推進の取組

様々な要素を取り入れた食育事業

富士市食育推進会議は、富士市食育推進計画「富士山おむすび計画」の推進にあたり、中学校区単位で食育推進校及び食育推進地区を指定し、学校・PTA・地域が連携した食育推進事業を実施しています。実施にあたっては、地域の特色を活かし、地場産物を活用しながら、地域の農家や食品製造業者等と連携し、食事バランスや地産地消、食文化の継承等、様々な要素を組み合わせた食育事業を展開しています。



土鍋で！地産地消炊き込みご飯作り

多様な連携・協働による食育の推進

食育推進会議の下部組織として、食育推進を実践するための食育推進事業実行委員会を設置しました。食育の実践にあたっては、食育推進会議、食育推進事業実行委員会、食育連絡会、食育サポーターとの幅広い連携体制を構築し、複数の領域をつないで事業を実施しています。



稲作体験の藁でお飾り作り

現状と問題点の把握のための取組

食育推進校にて食事歴法質問票（BDHQ）を用いて小中学生の栄養調査を実施しています。個々の結果と学校ごとの集計結果を基に、結果説明会及び食生活講座を開き、現状と問題点・改善方法について、児童生徒と保護者が共に学ぶ機会を設けています。また、食育推進地区において、味覚チェックや尿中塩分測定、塩分チェックシート等のツールを用いて減塩教室を実施しています。自分の塩分摂取状況を知り、何を改善したらよいかを具体的に学ぶことで、減塩の実施につなげる取組を行っています。



栄養調査結果説明



郷土料理スイーツがんと給食

今後も、小中学生栄養調査等により個々及び地域の現状や課題を把握することで食生活改善につなげる取組と、地場産物や人材を活用し食に関する理解や関心を深める取組を実施し、地域の特色を活かした食育を推進していきます。



富士市食育推進会議会長
牧田 一郎